

全事件・全過程での「取調べ可視化」を考える映画上映会

平成28年に改正された刑事訴訟法により、取調べの録音・録画制度が令和元年6月から始まりました。しかし、法律上、録音・録画の対象となる事件は、身体拘束全事件の3～4%程度にとどまるうえ、逮捕されていない被疑者や参考人の取調べも対象外です。他方で、捜査官から、威圧的な取調べや利益誘導を用いた取調べ、黙秘権等の被疑者の権利を侵害する取調べを受けたとされる事例は、後を絶ちません。

そこで、香川県弁護士会は、「取調べの全件可視化」の実現のため、その必要性、現状の問題点を市民のみなさんとともに考え、あるべき制度を考える機会を持つため、配給会社のご理解とご協力のもと、映画『Winny』の上映会を実施します！

映画上映後には、この事件の主任弁護士 **秋田真志（あきたまさし）** 弁護士（作中では吹越満さんが演じる。）と **松本優作監督** とをお招きし、映画の解説・裏話を皮切りに、可視化されない取調べの問題点や、全事件・全過程での「取調べの可視化」の必要性について語っていただきます！

日時：令和5年8月19日（土）
午後1時上映開始（開場午後0時半）
場所：香川県弁護士会館 5階大会議室

入場無料！

※事前申込み制
（裏面参照）
※先着60名！



Winny事件（ウィニーじけん）とは、ファイル共有ソフト「Winny」を開発した**金子勇氏**（作中では**東出昌大**さんが演じる。）が著作権法違反（公衆送信権の侵害）を問われ、一審有罪、控訴審で無罪、最高裁で無罪となった刑事事件です。

利用者だけではなく、ソフトウェア開発者も、逮捕・起訴されたことで、社会的な耳目を集める裁判となりました。

その過程で、可視化されていない取調室において、苛酷な取調べが行われ、そこで作成された証拠によって、無罪を得るまでに7年もの歳月を要した点も注目されるゆえんです。

秋田真志弁護士（大阪弁護士会所属）は、数々の無罪事件を担当され、最近では、SBS（揺さぶられっ子症候群）が問題となる事件や大阪地検特捜部の違法取調べを明らかにしたプレサンス事件などでも無罪を得ておられます。日本弁護士連合会でも刑事弁護センター委員長等の要職を歴任されています。

詳しい経歴はこちら→ shin-yu-lawoffice.com/akita.html



【お申込み方法】

1 **事前申込みがないと、当日の参加はできません。**

2 お申込みは、次のいずれかの方法により可能です。

① 携帯電話端末等において、右の【QRコード】を読み込んで必要事項をご入力の上ご送信いただく。



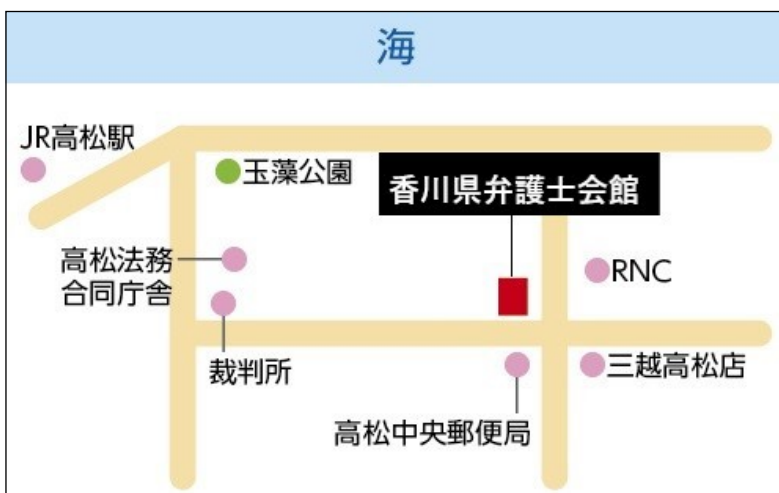
② 下の【URL】からアクセスいただき、必要事項をご入力の上ご送信いただく。

<https://forms.gle/a24MsqZcbDwXBFy1A>

3 **先着60名様までですので、定員に達し次第、受付を終了いたします。**受付終了後は、送信フォームにアクセスできなくなります。

【会場案内】

会場は、香川県弁護士会 5階 大会議室 です。会場入口において、事前申込みの有無を確認いたします。**来場者用の駐車場はありません。**スタッフ等の関係者以外、**会館の駐車場は利用できません**ので、近隣のパーキングをご利用ください。



住所：〒760-0033

高松市丸の内2-22

※ JR高松駅より徒歩10分

※ 琴電琴平線 片原町駅より
徒歩7分

電話：087-822-3693

※ 平日午前9時～午後0時
午後1時～午後5時

※ 土日祝日は通じません

不当逮捕から無罪を勝ち取った7年の道のり。

Winnie

A YUSAKU MATSUMOTO FILM

東出昌大 三浦貴大

皆川猿時 和田正人 木竜麻生 池田大
金子大地 阿部進之介 渋谷清彦 田村泰二郎
渡辺いっけい / 吉田羊 吹越満
吉岡秀隆

監督・脚本：松本優作

企画：古橋智史 and pictures プロデューサー：伊藤主税 藤井宏二 金山
撮影・脚本：岸 健太郎 照明：玉川直人 録音：伊藤裕規 ラインプロデューサー：中島裕作 助監督：杉岡知哉 衣裳：川本誠子 視覚効果：板垣実和 装飾：有村謙志
制作担当：今井高道 原田博志 キャスティング：伊藤尚哉 編集：田巻源太 音響効果：阿瀬品彦 音楽プロデューサー：田井モトシ 音楽：Teje × 田井千里
制作プロダクション：Libertas 制作協力：and pictures 配給：KDDI ナカチカ 宣伝：ナカチカ FINOR
製作：映画「Winnie」製作委員会（KDDI Libertas オールドブリッジスタジオ TIME ナカチカ ライツキューブ）
原案：朝日新聞 2020年3月8日記事 記者：渡辺淳基 2023 | 127min | color | CinemaScope | 5.1ch ©2023映画「Winnie」製作委員会 (C) (R)

3.10 Fri

winnie-movie.com @winnie_movie

ネット史上最大の事件。
実話を基にした、
挑戦と戦いの記録。



2002年、開発者・金子勇は、簡単にファイルを共有できる革新的なソフト「Winny」を開発、試用版を「2ちゃんねる」に公開をする。彗星のごとく現れた「Winny」は、本人同士が直接データのやりとりができるシステムで、瞬間にシェアを伸ばしていく。しかし、その裏で大量の映画やゲーム、音楽などが違法アップロードされ、ダウンロードする若者も続出、次第に社会問題へ発展していく。次々に違法アップロードした者たちが逮捕されていく中、開発者の金子も著作権法違反幫助の容疑をかけられ、2004年に逮捕されてしまう。サイバー犯罪に詳しい弁護士・壇俊光は、「開発者が逮捕されたら弁護します」と話していた矢先、開発者金子氏逮捕の報道を受けて、急遽弁護を引き受けることになり、弁護団を結成。金子と共に裁判で警察の逮捕の不当性を主張するも、第一審では有罪判決を下されてしまう…。そして、運命の糸が交差し、世界をも揺るがす事件へと発展する――。

ただ、未来“を守りたかった”。
殺人に使われた包丁をつくった職人は逮捕されるのか。



Winnyの開発者である金子勇役を演じるのは東出昌大。役作りのために現役の弁護士を交えた模擬裁判を実施し、体重を18kg増量させるなど、徹底したアプローチで撮影に挑んでいる。そして、金子氏と共に裁判へ挑む弁護士の壇俊光役を演じるのは三浦貴大。彼もまた、壇氏本人とコミュニケーションを取りながら役に向き合っていた。弁護士団を演じた出演陣には、皆川猿時、和田正人、木竜麻生、池田大、そして主任弁護士秋田真志役の吹越満。警察の真金問題を告発する仙波敏郎巡査部長役に吉岡秀隆。ほかにも、渡辺いっけい、金子大地、渋谷清彦、田村泰二郎、カウシンスケが出演。さらに、吉田羊が金子の姉役として出演するなど、作品のメッセージに賛同した実力俳優たちが集まっている。

監督は、自主映画として製作した『Noise ノイズ』(19)が国際映画祭で評価され、『ぜんぶ、ボクのせい』(22)で商業映画デビューを飾ったばかりの松本優作。これまで、社会の過酷な現場の中で生きる市井の人々を描いてきた松本監督は、金子氏の考えに共鳴。当時小学生だったため、事件の詳細を知らなかったが、真実を世の中にも知ってもらうためにも取材を重ね制作に挑んだ。

Winny事件の顛末は、あまり世の中に知られていない。その事は、事件後の金子勇本人の人生も知られていないという事でもある。これは、技術者の未来と権利を守るため、権力やメディアと戦った男たちの実話に基づく物語。金子勇の人生をスクリーンで目撃してほしい。



3.10 Fri



レピチカカード
¥1,500(税込)発売中